

日鐵會社一分増配に對する従業員組合の反對運動

日鐵會社最近の業績から其の取大株主たる政府が一分の増配を要望せる今回の日鐵増配問題は米然八幡製鐵所三萬従業員一致の反對運動を惹起するに至つた。即ち同所従業員を以て組織する日本製鐵従業員組合を中心に舊職來兵の反對運動を取行しつつあり既に全従業員の反對調印書を携へ従業員代表を上京せしめて中央に於ける關係當局はもとより近く再開さるる帝國議會を目標して猛烈なる反對運動を展開することとなつたのであるか今日迄の經過大要左の如くである。

一、昭和十年十二月五日日鐵従業員組合執行委員会開催

右執行委員会に於て始めて増配反對運動に就き協議の結果増配を以て従業員の特進改善を犠牲にして製鐵産業の健全性を破壊する暴挙なりとして絶對反對を表明し次の事項を決定し

た。

陳情

1、反對陳情を作成して政府關係當局日鐵重役労働組合會議等に送付して輿論の喚起に努むること

2、反對運動の趣旨徹底の爲ヒラ數萬枚を作成し青年部員をして全従業員に配布すること

3、右起草委員として次り三名を指名す

猪野兼毅、 渡邊仁、 花田國雄

4、來る十二月十五日日鐵社長來轄の豫定に付當日訪問反對陳情をなすこと

二、日鐵従業員組合青年部のヒラ配布

十二月十日青年部會を開催して協議の上反對運動の先頭に立つて活動することとなり前項印刷の増配反對宣傳ヒラ（別紙添付）を同月十一日及び十二日の兩夜製鐵所各門に於て従業員